



望～ぽう～

2020年 12月発行

25号



令和2年も残すところ13日間となりました。今年は、コロナで始まりコロナで終わろうとしています。当センターとしては、予定していた研修も半分も実現できず、とても残念でなりません。しかし、コロナ禍であるが故の気付きもありました。たとえば、家族が家で過ごすことで、お子さんと遊ぶ機会が増え今まで見えなかったお子さんへの気付きやかかわり方等々に変化のあった家庭もありました。また、絆がより深まった家庭もありました。そんな中、「今年の漢字」が発表され「密」が選ばれました。理由として、

- 新型コロナウイルスの感染拡大で「3密」ということばが使われ、多くの人が常に「密」を意識しながら行動するようになったこと。
- 離れていてもオンラインなどで大切な人との関係が「密」接になったこと。
- 政界や芸能界では内「密」や秘「密」が多かったこと。 …等



があげられました。ウィッシュとしても三密を避け、ソーシャルディスタンスを取りながら、当事者の皆さんはもちろん関係者の皆様とも連携を深め、取り組んでいきます。今後ともよろしくお願いいたします。

センター長 石橋美恵子

研修会のご報告

今年度、以下の研修会を行いました。コロナウィルスの感染予防対策として、例年より参加者の募集人数を削減しての開催でしたが研修会によっては定員を超える申し込みをいただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

また、今年度前半の研修会はコロナウィルス感染防止対策として、中止いたしました。開催日間近で急遽中止した研修会もあり、ご参加予定だった皆様には大変ご迷惑をおかけいたしましたこと、改めてお詫び申し上げます。『発達障害児・者 支援者研修』『ソーシャルスキルトレーニングの知識と技法を学ぶセミナー』『学習障害の支援を学ぶセミナー』に関しましては、来年度も同じ講師の方をお呼びして開催したいと考えております。日時、参加対象者、開催場所などの詳細につきましては、来年度ご案内いたします。

早期支援体制づくり研修



10月18日(日)乳幼児期の子どもへの支援を行っている方を対象に、島根県立大学人間文化学部保育教育学科 教授 園山 繁樹 氏を招いて、『幼児期の発達の気づきから支援に～自閉症と場面緘黙を中心に～』と題し、講演や事例検討を通して支援方法について研修を行いました。感染防止対策で一部研修方法を変更せざるを得ない状況ではありましたが、「場面緘黙について学ぶことができ、今後の支援の幅が広がり勉強になった。」「子どもの人生を決めてしまう責任があると改めて感じ、学ぶことを大切にしていきたい。」「様々な事例について自分の対応を見直したり、今後の参考にしたりすることができた。」等感想をいただき、学びを深める研修会となりました。

裏面へ👉

発達障がい就労支援事業者スキルアップセミナー ・ 発達障がい特性活用セミナー



10月31日（土）内閣府 地域働き方改革推進会議委員 渥美 由喜 氏とリモート形式で講演会を開催しました。午前中は、就労継続支援事業所、就労移行支援事業所、その他発達障がいのある方の就労支援に従事されている方を対象に、『ワークライフバランスを図るための発達障がい者の支援の工夫～発達障がい者が活躍できる社会・職場づくりに必要な支援～』と題し講演をしていただきました。そして午後は、発達障がいのある方やその家族 等を対象として『発達障がい者専用のトリセツ（取扱い説明書）を持つには』と題し、講演をしていただきました。この度の研修会は、東部会場と西部会場とリモートをつないで行ったことで、より多くの方に視聴していただくことができました。参加者からは、「単に障害者雇用というだけではなく、働き方（多様な人材の活かし方、ライフワークバランス等）まで話が聞けて良かった。」「相手を主語にして考えること、気持ちの主語を何に向けると良いのか明確になりました。」「自分を知ること、周囲が環境を変えることが大切と思った。」等の感想をいただきました。

発達障がい支援フォーラム 2020

『依存するってなーに？』～「なんで できないの？」を「どうしたら できるの？」に変えるために～

11月29日（日）ハーティック研究所 所長／NPO 法人えじそんくらぶ 代表 高山恵子 氏とリモートをつないで研修会を行いました。午前中は『ゲーム依存になる前に知っておきたいこと～自己理解とストレスマネジメント～』と題し講演をしていただき、午後はシンポジウム『当事者の声』と題し、3名の当事者の方を招き、『依存』について自身の体験をもとにお話をいただきました。参加者からは、「今まで聞いたことない新しい情報提供があって示唆的でした。」「依存の背景をリアルに話していただき、当時の状態や克服するまでの過程を理解できたような気がした。」「当事者の声を聴いて、発達障がいをとても身近に感じる事ができた。」等、感想をいただきました。



最近、テレビや新聞などで『発達障がい』について取り上げた番組や記事を見聞きすることが増えてきたように感じます。それらの情報から得るものも多くありますが、実際に『生の声』を聴くことで感じることもまた豊富にあります。コロナウィルスの関係で中止や変更等を余儀なくされるかもしれませんが、今後も研修等を通して少しでも多くの方に『生の声』を届けていきたいと考えております。ウィッシュでは、当センター主催研修会の他、様々な業種からの依頼を受けてウィッシュスタッフが講師として出かけることもしております。ご希望がございましたら、一度ウィッシュまでご連絡ください。



🍀ありがとうございました🍀

先日、“自閉症児やその兄弟の育児をされている保護者の方の心が少しでも軽くなれることを願い、参考になりましたので寄贈させてください。～自閉症児を育てる母より～”と、メッセージを添えて匿名で書籍『一緒にゆっくり歩いてゆこう～自閉症児と私の想い～ 華凜／著』が届きました。57のエピソードについて著者が感じたことが短くまとめてあります。ひとつひとつの出来事に心がほっこりすると共に、“一緒に”は当事者の家族だけではなく、それを取り巻く様々な人たちも示しているように感じました。ご寄贈いただき、ありがとうございました。この場を借りて御礼申し上げます。

発行元：島根県東部発達障害者支援センター **ウィッシュ**



〒699-0822 出雲市神西沖町 2534-2（さざなみ学園内）

TEL：050-3387-8699 / FAX：050-3730-9745 / メール：wish@sazanami-g.jp